

タイトル：西京高等学校附属中学校の生徒がスイスの方々とお茶で国際交流しました！

きょうとまるごとお茶の博覧会、学生プロジェクトに参加している京都府立大学大学院生の芦田です。

今回は令和7年6月6日（金）に京都市立西京高等学校附属中学校で開催された第1回目となる国際交流茶会の様子をレポートします！

今回はスイスのチューリッヒ応用科学大学の研究者3名をおもてなし！

まず、西京高等学校附属中学校の「日本の伝統部」のみなさんがお点前を披露されました。

大勢の人々がじっと見守るなか、堂々としたお点前で。さらに流暢な英語で説明され、スイスの方々も興味深くご覧になられていました。お茶とお菓子にも非常に喜ばれている様子でした。

その後、抹茶を点てる体験、茶室見学をしました。ここでも生徒のみなさんが英語で茶筌の使い方などを説明し、スイスの方々との会話を楽しんでいました。最後に、日本のお土産として、扇子などをプレゼント。とても和やかなムードでのおもてなしとなりました。

「日本の伝統部」には、現在13名が所属しており、普段は茶道やかるたなど、日本の伝統的な文化を体験する部活動だそうです。

所属する生徒さんに終わった後、「緊張しましたか？」と質問すると、「英語での説明が難しかった。」という感想をいただきました。

生徒のみなさんが一所懸命にがんばっていらしゃったおかげで、日本の伝統文化である茶道の魅力を知っていただけだと思います。

中学生とは思えないしっかりとした姿に驚かされました…。おつかれさまでした！



その後、研究者の皆さんによる研究紹介・生徒を交えたディスカッションを実施しました。おもてなしを受けたスイスの研究者によるプレゼンテーションが行われ、通訳を交えて約 30 名の生徒が真剣に耳を傾けていました。その内容は「AI と友達になれるか」。機械と人間が友情を構築できるかというテーマでした。



研究紹介の後半では、ひとりの生徒が VR ゴーグルを着用し、研究者が作成したプログラムを体験しました。VR の視点がモニターに映し出されると、AI との会話に、教室からは何度も「すごい！」と歓声が上がりました。

研究紹介が終わった後も、生徒から VR ゴーグルを体験したいという手が沢山あがりました。研究者に積極的に質問をする生徒も多く、時間いっぱいまで楽しまれていました。

第 1 回目の国際交流茶会は、このように活発な国際交流の場となりました。

西京高等学校附属中学校のみなさんの好奇心旺盛な姿に刺激をいただきました。

生徒のみなさん、サポートされた教職員の先生方、ご関係の皆さまおつかれさまでした！